

2016年6月19日

福音書からのメッセージ

自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。

(ルカによる福音書9章24節)

イエス様が語られたこの言葉を聞くと、わたしたちはどのような思いを持つでしょうか。自分を捨てる。自分の十字架を背負う。イエス様に従う。その一つ一つの命令はわたしたちの心に大きな葛藤をもたらすでしょうし、そしてイエス様のために命を失う。この言葉はわたしたちに様々な思いを抱かせるものとなります。

イエス様は自分の十字架を背負うようにと言われました。この言葉を聞いた弟子たちや周りの人々の顔は曇ったことでしょう。なぜなら今でこそ十字架はキリスト教のシンボルであり、首から下げ、部屋の隅に飾っても、なんら違和感はありません。ところが、イエス様の時代の十字架は処刑の道具であり、人々がとても嫌がるものでした。

さらに、十字架を背負いなさいというイエス様の言葉を聞いて人々がすぐに思い浮かべたのは、処刑場まで歩かされる犯罪者の姿でした。十字架刑は、人々からよく見られる場所でおこなわれていました。いわゆる晒し者です。小高い山や丘の上でおこなわれることが多かったようです。その場所まで、十字架を背負う人は行かなければなりませんでした。

つまりイエス様の「自分の十字架を背負え」という言葉は、「あなたも処刑場についてこい。処刑されるために一緒に来い」という、大変厳しい言葉なのです。そしてそれは、「わたしのために命を失う」ということをも意味します。



もしもイエス様に従うことが、この十字架までで止まってしまうならば、そこには希望はありません。しかしイエス様は、同時にこう言われています。

人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。

人の子、つまりイエス様は十字架に向かわれます。そのときに多くの苦しみを受け、殺されます。しかしそのあとに、とても大切なことを言われています。「三日目に復活することになっている」。死ですべてが終わってしまわないのです。神さまのみ心によって、復活することになっているのです。

神さまの意思によって、イエス様は十字架へと向かいます。しかし神さまは、イエス様の死ですべてを終わらせません。復活があるのです。そのことが決まっています。だからあなたがたも、わたしの後に続きなさい。あなたがたが死によって、すべてを終わらせてしまわないように、新しい命に生きることができるよう、わたしの後に従いなさい。それが今日、イエス様がわたしたちに下さったメッセージなのです。

その希望をもって、わたしたちはイエス様の跡を歩んでいきたいと思えます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>